

令和2年9月29日（火曜日）



横浜市立山内中学校 横浜市青葉区美しが丘五丁目4番地

045(901)0030

「守・破・離」

校長 石崎 一敏

先日の体育祭では、白熱した競技が披露され、「山中生、ここにあり」と言わんばかりの勇姿がみられました。自ら考え行動する主体的な態度、ルールをしっかりと守ろうとする自律的な態度、一人ひとりが役割を確実に果たす態度、それらの三つがそろって成功につながったのだと思います。

さて、桃山学院教育大学学長の梶田叡一先生は、剣道や茶道などをマスターしていくときの「守・破・離」という言葉を引用して、人間の学びや成長について次のように説明されています。

最初に『「守」という段階が必要である』『守』は師匠（先生）の言うことを受け止め、受け入れて、「これをやっごらん」と言われたら、素直にやってみるという段階のことだそうです。これがなければ、何事もものになりません。教科書に書いてあること、また先生に言われることを心にしっかり留めて決して忘れないということです。つまり、自らの力として習得するのです。

次に『「破」の段階に進むことが大切である』『破』は習得したことを自分なりに打ち破っていかうとすることです。いつまでも教えられているばかりでは進歩しません。教えられたことを自分なりに整理し、自分で考え、判断し、新たな発見や独創的な表現をしたりしていかなければいけないということです。これは活用力にも通じるものでしょう。

そして『「離」の段階へと至る』『離』は一人旅です。自分の内側にためた知識や、それを活用する力を土台にして、新しいものを求めて歩み出ていくということです。習得・活用・探究は、「守・破・離」とほぼ重なっています。それらはまさに今求められている学力の中心核となっているものです。「破」も「離」も、根本は自ら学ぶということですが、その前提として、大事なことをマスターしているということがないと、空回りすることは理解できると思います。このことを念頭に置いて、皆さんも、日々の授業を大切に、学ぶ楽しさや喜びを味わえるよう努力しましょう。



団結！体育祭！



毎年、春に行われている体育祭ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、9月15日に開催されました。競技は「クラス全員リレー」「大縄跳び」「選抜クラス対抗リレー」の3種目のみでしたが、どのクラスも一致団結して取り組んでいました。

前の週までの暑さも和らぎ、天候にも恵まれました。秋のそよ風が心地よく吹いて、皆の活躍の後押しをしてくれました。3種目とも全学年行われたので、各学年のカラーがよく出ていて、とても見応えのある体育祭となりました。今年は3年生の保護者のみの見学になってしまいましたが、たくさんの温かい拍手と共に見守っていただき、本当にありがとうございました。



体育祭をリードしてくれた生徒たちの言葉

体育祭実行委員長 西村 稀恵

マスクを付けて行った、いつもとは違う体育祭。私は当日までドキドキしていました。1・2・3年で交流する機会がなくて、体育祭の雰囲気をつかむことができないままでの開催となってしまったからです。例年以上に盛り上がるのか、そして楽しめるのか、とても心配でした。ですが、当日、生徒のみなさんの応援や競技へ取り組んでいる姿は、とても輝いていてカッコ良かったです。みなさんの思い出の1ページに残るような体育祭になったと思います。ご協力ありがとうございました。

青組代表 宮内 乃阿

まずは、体育祭本当にお疲れ様でした！ 今年は今までとは違い、縮小した形での体育祭でしたが、全校のみんなも協力してくれて、無事に体育祭を成功させることができました。青組のみんなが最後まで僕についてきてくれたおかげで優勝することができました。

ありがとうございます！ 来年はいつもの体育祭が開催されることを祈っています！ たぶん来年も青組が勝ってくれるだろうなあ... と期待しています！



赤組代表 大麻 恭祐

体育祭のご協力ありがとうございました。今年の体育祭は例年とは異なった形で行い、それぞれ不満などはあったと思います。自分も縮小という形になり、いろんな思いが胸にこみ上げてきました。それでも体育祭当日、各学年が全力で取り組んでいる姿を見て、とても嬉しかったです。今回の体育祭を通して、各クラスで絆や友情などたくさんのごことを得られたと思います。このことを次は日常生活、そしてこれからの活動につなげられるようにしていきましょう。



黄組代表 松村 和磨

初めて団長をいう立場で、「みんなをまとめる」というプレッシャーに押されながらも、周りの人に支えられ、色代表の大変さを改めて知りました。色代表の選手宣言は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2～3回しか練習できなかったのですが、本番では一番大きな声を出せて、縮小した体育祭も盛り上げることができました。そして、1・2年がクラスをまとめてくれて、ウェーブの時には、一丸となって協力してくれました。学年全体が1つになったことが最高に嬉しかったです。



『令和2年度 就学援助追加申請受付について』

4月の年度初めに「就学援助制度のお知らせ（令和2年度）」を配布しておりますが、年度途中でも随時申請を受け付けています。また、一度非認定となった方でも、新型コロナウイルス感染症の影響等で減収した世帯にあっては、再度申請することができます。ご希望の方は事務室までお問い合わせください。

